

あねやこうじかいわい

姉小路界隈を考える会の「市民主導による美しい都市づくりへの実践」

[応募者] 氏名：石本幸良/住所(勤務先)：〒600-8007 京都市下京区四条高倉立西町82 / 勤務先名：(株)地域計画建築研究所/連絡先(勤務先)：TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764 Email:ishim-yk@arpak.co.jp

●応募理由

京都の都心部の姉小路界隈で、平成7年夏のマンション建設計画を契機として、「姉小路界隈を考える会」を設立し、これまで市民主導のまちづくり活動を展開してきました。様々なオリジナルなイベントの企画・実施・継続、町式目の制定・建築協定の締結、対立から価値の共有を実現した地域共生の土地利用検討会の取組、街なみ環境整備事業による京町家再生事業の実践等とソフトからハード面まで多岐な活動を実施してきました。この12年余りの活動とその成果は界隈のコミュニティ力の強化とともに、美しい京町家のまちなみの再生を実現してきました。個々の取組の成果及び会の継続した取組全体は京都の美しい都市づくりに向けた様々な新しい建築ルールの導入を促し、市内だけでなく、全国の多くのまちづくり活動のリード役として、多様な情報提供とまちづくりのノウハウを提供してきました。

●作品または活動の概要

- 平成7年10月 姉小路界隈を考える会設立
- 平成11年1月 地域共生土地利用検討会スタート(～12年12月)
- 平成12年4月 姉小路界隈町式目(平成版)制定
- 平成14年7月 姉小路界隈地区・松長町地区建築協定公布
- 平成14年8月 アーバネックス三条完成、9月から入居開始
- 平成15年1月 NPO法人「都心界隈まちづくりネット」設立
- 平成16年9月 まちづくり協定締結、街なみ環境整備事業スタート
- 平成17年3月 街なみ環境整備事業による京町家再生事業2棟竣工
- 平成18年3月 京町家再生事業2棟完成(17年度街なみ環境整備事業)

●作品または活動の特色

- 継続している主なまちづくり活動
 - ・看板の似合うまちづくり(平成7年度～)
 - ・灯りでむすぶ姉小路界隈(平成9年度～)
 - ・花と緑でもてなす姉小路界隈(平成10年度～)
- 地元住民・事業者・行政のパートナーシップによる地域共生の土地利用検討会
- 近世の町衆のまちづくり規範である町式目の現代版町式目の導入
- 市民のまちづくり活動から展開した街なみ環境整備事業の導入・実施
- 都心界隈まちづくりネットと協働の美しい都市づくりに向けた情報発信

1 姉小路界隈を考える会の設立(平成7年)

1 町家街区での高層マンション問題の発生
姉小路界隈は昔から住のあたかみと職の活気が響きあい、青みあい家えてきた職住共済のまちです。様々な生業を営む老舗と小さな商店と町家を含むごく普通の住宅が並ぶ中低層の町並みは、落ち着いた表情を見せています。
平成7年6月に、界隈の人に親しまれていた「旧京都市ガス本社跡地」で、突然、高層分譲マンション計画が発表され、地元では反対運動を開始しました。

2 姉小路界隈を考える会の設立
界隈ではこの問題を契機に学習会を連続的に開催。まちを再発見し、皆が納得できるまちの将来像を探ることの必要性の検証を行い、平成7年10月に「姉小路界隈を考える会」を設立しました。活動は、建物の高さやデザインの規制などの各論からではなく、まちを再発見し、みんなが納得できるまちの方向を探っていくことを目的に開始しました。

【会の目的】
豊かな歴史と伝統を有する姉小路界隈において、この地で育まれ継承されてきた、優れた精神性(こころ)の再認識を行い、まちを支える人のつながりを大切に、住みよい、安心して暮らせる環境づくりや、まちに住み、働く人々に愛され、誇りに思える町並みづくりなどを皆で考え、皆の手でまちづくりにつなげていくことを目的とする

■マンション建設反対運動とまちづくり活動を同時平行で展開
マンション建設反対運動を活発に展開する一方で、まちづくり活動を開始しました。反対運動後のまちの状況を考慮し、界隈再発見により互いの理解を深めることで、まちの将来像をみんなで共有することを目的として活動を開始しました。

2 姉小路界隈を考える会の活動(平成7年～)

◆看板の似合うまちづくり
界隈に点在する老舗の著名な看板による「看板」に着目し、「看板の似合うまちづくり」を最初のキーワードとして取り組みました。

◆会報の発行
会の活動内容を会報として発行しています。中でも界隈に住む老舗のご主人や職人に話を伺い、紹介する「姉小路にんげんマップ」は、好評で、活動の柱の一つになっています。

◆花と緑でもてなす姉小路界隈
界隈に似合う鉢植えを作り、通りを並べてもてなすの心を表現するイベントを平成10年度から実施しています。

◆姉小路町地蔵盆
平成15年度 平成16年度

◆NPO法人「都心界隈まちづくりネット」の設立
住民と地元企業と行政の協働を図るために、姉小路界隈を考える会を中心に平成15年1月にNPO法人「都心界隈まちづくりネット」を設立しました。この法人では「美しい都市・京都づくり」を目指して、企業と住民のネットワーク型のまちづくりを展開します。

■「界隈を楽しみ、界隈の人が楽しむ」活動の継続
会の活動では様々な人からの提案を基本に、界隈ならではの価値を付加し、界隈の人が楽しむイベントや活動に仕上げるプロセスを大切にしています。界隈の人が楽しむことでさらにバージョンアップした企画に生まれ変わり、継続していることが特徴です。

3 地域共生の土地利用検討会(平成11年～14年)

1. 個々の利害調整を超えて価値の共有のまちづくりへの発展
平成10年夏に会設立の契機となった敷地において、「地域の人の手に受け入れられ、ともに享受しあえる施設建設を目指したい」との検討の提案を事業者から受け、平成11年1月に地元住民、事業者、行政のパートナーシップによる「地域共生の土地利用検討会」がスタートしました。検討会は12年12月に取組の成果を「地域共生の土地利用基本計画『まちづくりプラン』」にまとめました。平成14年8月末に「アーバネックス三条」が竣工、9月に入居に至りました。

2. まちなか住まい交流会の開催
○「顔の見えない不安感」を解消するため、計画段階の平成12年秋に「まちなか住まい交流会・ワークショップ」を開催しました。
○「地域の人にも新しく住む人も『顔の見えない不安感』を大切に、自然な交流がしたい」とのキーワードをもとに、竣工前に隣接する町家の地蔵盆に入居予定者を招待し、竣工後も入居者の方と界隈の方とイベントなどを通じて様々な交流活動を実施しています。

3. まちなか住まい交流会の発展
アーバネックス三条のエンタランス前で、界隈の人と入居者の協働作業で「界隈フロントガーデン(コンテナガーデン)」と名付けて寄せ植えづくりを行いました。
交流の象徴として青々としたガーデンを維持するには日頃の気遣いが大切です。ガーデンを通じて新たな、さりげない日常の交流の小さなきっかけが実現しました。

■「対立の構図」から「価値の共有」を目指す活動への転換
まちなか住まい交流会の開催の継続により、「新しく導入される人やモノがまちと対話し、対話を通じてまちがより豊かになる方向へと変化を誘導したい」とする会の設立当初からの目標を具体化することができました。

4 界隈町式目から建築協定締結(平成12年～14年)

1 「姉小路界隈町式目(平成版)」(平成12年4月)
会設立の目的である「住みよい、安心して暮らせる環境づくり」の具体化に向け、江戸時代の自治管理体制の遺った町式目「町式目」の勉強会を実施し、平成12年4月に「姉小路界隈町式目(平成版)」を策定、今後のまちづくりの基本方針としました。

2 姉小路界隈地区・松長町地区建築協定(平成14年7月)
会では姉小路界隈町式目の具体化に向け、平成13年1月から建築協定締結に向けて活動を開始。平成14年3月26日に2つの建築協定地区の申請書を京都市に提出。平成14年7月に公告され、都心部で13町内会、協定者約100人、協定区域面積約2haにも及ぶ広範囲な建築協定が実現しました。

■界隈町式目を基本に、現代版の町衆によるまちのルールが完成
京都の都心部・姉小路界隈において、まちづくりの基本目標である界隈町式目から具体的なまちづくりの基本ルールとなる町式目・建築協定が実現し、時代の変化を積極的に誘導し、豊かな都心界隈づくりの歩みを進めることができました。

5 街なみ環境整備事業による京町家再生

■姉小路界隈地区は府下で最初の街なみ環境整備事業地区です！
姉小路界隈地区の様々な活動および建築協定の締結の成果を踏まえ、京町家と調和した街なみを創造し、地域の魅力や活力を高めることを目的に、「街なみ環境整備事業」の導入が決定しました。平成14年度～16年度で「姉小路界隈地区街なみ環境整備事業」の事業計画策定を行い、16年9月末に「まちづくり協定とその区域」について、京都市の承認を得ました。
協定は「姉小路界隈町式目(平成版)」を実現するために、都心界隈の居住環境を保全しつつ、職住共済地区の環境を維持増進することを目的とし、2つの建築協定区域を対象としています。16年度に事業制度を活用して2件の京町家再生が実現しています。

■平成16年度は最初の事業として以下の2件で、修業事業を実施しました。

	(修業前)	(修業後)
【露口部】 いわゆる「看板建築」を古い図面を参考に、元通りの町家のデザインに修業しました。		
【菊間部】 ガレージのシャッターを木製扉に、通りに面しての外壁等を修業しました。		

■界隈の自主協定に基づき具体的な京町家再生事業が完成
会の活動を開始して約10年が経過した平成17年3月に姉小路通に京町家が再生され、会設立の目的である「誇りに思える町並みづくりを、まちの皆の手で実現する」ことができました。